

魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年6月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス
※2 この動向は、6月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW」（6月分）

東予地方局産地戦略推進室

■スマート農業の実現に向けた研修会の開催

- 地域農業育成室は6月6日、17日に、人手不足解消や面積拡大の手段としてスマート農業機械の導入を推進するため、西条市氷見、国安地区において、農家や関係機関を招きスマート田植機の研修を実施。
- 自動直進運転とともに土壌肥沃度がリアルタイムで測定できる田植機は、肥沃度に応じて肥料を3段階で調整しながら田植を行い、別の機種では、GPSからの電波を受ける基地局を設置することで、自動直進運転に加え自動回転も可能となった。
- 田植作業は、圃場の硬度や作土深の違いによりハンドルが取られ、直進性など熟練された技術が必要であるが、スマートアシストにより経験のない人でも運転でき、新規就農者や女性、外国人労働者雇用でも作業ができることから、機会を捉えながら青年農業者や認定農業者に情報を提供していく。



リアルタイム肥沃度測定装置の説明



基地局設置で直進と回転の自動運転

四国中央農業指導班

■さといも疫病対策を推進

- 四国中央農業指導班は、四国中央市土居町藤原地区において、さといも疫病対策を推進。
- 同地区は、海岸に面した北・西からの海風により葉が傷つきやすく、例年、疫病の初発が見られることから、栽培農家13戸・6.3haに防除旗を設置し重点的に指導。
- 初発警戒が必要な時期の6月13日からは、額縁防除（葉が傷つき発病しやすい圃場周辺部からの防除）を実施。
- 6月末時点で、同地区での疫病は発生していないが、今後も梅雨の連続降雨に注意し、初発警戒・初発後防除対策を徹底する。

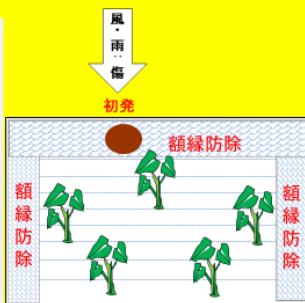
◎サトイモ疫病対策 額縁防除

【額縁防除で傷口を保護し初発を遅らせる】

- ・6月15日から1回額縁防除。
- ・7～8日後に圃場全体防除。（ジーファイン水和剤）

【疫病の主な発生要因】

- ・連続する10日間の日平均気温が21～25℃になると、畑の周辺から発病。
- ・海岸部の海側（北側）で風雨等で下位葉が損傷したところから感染し発病。



防除旗（防除意識の徹底）



額縁防除の実施（防除旗）

東予地方局産地戦略推進室

■絹かわなすの販売促進を実施

- 産地戦略推進室は6月22～23日、絹かわなすの需要拡大のため、今治市のイオン店舗で販売促進活動を実施。
- 皮が薄くて柔らかい特徴をPRするため、絹かわなすのステーキの試食会を開催。
- 試食した買い物客は、「初めて食べた」「おいしい」と絹かわなすを買い求め、2日間で約300個が販売された。
- この販売促進活動は、H27年度に県が西条市・JA西条とともにイオンリテール(株)と設立した「愛媛県西条市絹かわなす協議会」によるもので、今年度は松山市や東京都など県内外5か所のイオン店舗等で行う予定。



販促の様様

今治支局産地戦略推進室

■大三島で醸造用ぶどうの施肥実証試験を開始

- 産地戦略推進室では、大三島地域で醸造用ぶどうの生産振興に取り組んでいる。
- 醸造用ぶどうは平成27年から栽培が始まり、現在1.6haまで作付面積は拡大しているが、同地域に適した施肥体系は確立されていない。
- 今回、垣根栽培されている主要品種の‘マスカット・ベリーA’と‘シャルドネ’について、今月10日から施肥管理の実証試験を開始し、樹体生育や収量、果実品質への影響等について調査を行う。



‘シャルドネ’果実(6月10日時点)



施肥試験の様子

職 氏名/専門員 笹山新生

- 東予地方局は6月21日、大阪で開催された「第6回なにわ花まつり」において、四国中央市及び今治産花木のPR活動をJAと連携して行った。
- 同行事は、(株)なにわ花いちばに、全国の花き産地や関連会社が一堂に会する国内最大級のイベントであり、当日は800人を超える来場者でにぎわった。
- 東予の展示ブースでは、関心を示す花屋等に対し、花木のピットスポラムやビブルナム・

ティナスの品質の良さ、アレンジ方法のPRを行い、東予産花木の需要拡大につなげる活動を展開した。



販促活動の様子



展示ブースの様子

■今治産花木の栽培者拡大に向けた活動を展開

- 産地戦略推進室は、6月24日～28日かけて、JAと連携し管内12か所で、新たに花木栽培に取り組む農家を対象とした説明会を開催した。
- 事前に、花木栽培の有利性について、JAの広報誌に特集として大きく掲載し、農家の関心の向上に努めたところ、合計で13名の参加者があった。
- 説明会では、産地としての特徴や、推進を図っているビブナム・ティナスやピットスポラムの経営収支モデルなどをわかりやすく紹介した。
- 新規栽培者は9月下旬に苗を定植して栽培を開始するため、局予算事業を活用した栽培塾を計画的に実施する。



説明会の様子

■オリーブ栽培先進事例調査の実施

- 産地戦略推進室は6月26日、広島県江田島市へのオリーブ栽培先進事例調査を、生産者、地元企業、地域おこし協力隊、今治市、JAおちいまばり等33名の参加で実施。
- 江田島市におけるオリーブ栽培は、平成23年にスタートし、わずか8年で28haまで拡大、新たにオリーブオイルの製造販売会社も設立される等、目覚ましい動きをみせており、今後、栽培拡大を目指すしまなみ地域の参加者は大きな刺激を受けた。
- 参加者からは、推進体制づくりや専門的な指導者の養成、搾油技術の向上等について質問が多くあり、産地化に向けた課題を共有する研修となった。
- 今後、よりスピード感を持った取組みとなるよう、改めて参加者の知見や情報共有を図るとともに、個々のネットワークの活用にも力を入れる。



オリーブ視察園場

中予地方局地域農業育成室

■管内かんきつ園で初のドローン防除を実施！

- 地域農業育成室は6月13日、伊予柑の省力化技術実証の一環として、松山市福角町の伊予柑モデル園で、中予管内では初となるかんきつを対象としたドローン防除を実施。
- 当日は、オペレーターと補助者2人が、約10aを8分程度で防除し、生産者やJA等の関係者32人が状況を確認。
- 生産者からは、「手散布するのが嫌になるほど防除時間が短い」「思ったより樹冠内部にも薬剤が付着している」などの声があった。
- 今後9月まで、月1回の黒点病防除をドローンで実施する予定で、防除時間や薬剤付着量、ドリフトや黒点病発病度などを調査し、ドローン防除の効果を検証するとともに、生産者や関係者にドローン防除を自分の目で確認する機会を提供する。



かんきつ園でのドローン防除

■JAを窓口とした農福連携マッチング支援

- JAえひめ中央は6月25日、同砥部経済センターにおいて、農福連携によるブルーベリーの出荷用段ボールの箱折り作業を、福祉施設と契約し実施。
- 当日は、就労継続支援B型事業所(株)シェアの施設利用者4名が、500箱の箱折り作業を行った。
- 同JA管内では、これまでも農家個々が福祉施設と契約を結び、農作業を委託し実施した事例はあるが、JAが直接契約を結ぶのは今回が初めて。
- 地域農業育成室は、全農えひめ等と連携し、担い手の労働補完の一手法として農福連携を推進しており、今回の契約においても、生産者、JA、福祉施設と協議を重ね、取組みをサポート。
- 管内では、既にJA松山市が福祉施設と契約した事例があり、JAが主体となった農福連携の拡大が期待される。



箱折り方法をレクチャーする生産農家

伊予農業指導班

■トマトの高収益栽培技術の確立に向け予備試験を実施

- 伊予農業指導班は、普及組織先導型革新的技術導入事業による、ミニトマトの高収益養液栽培技術の確立を図るため、種類や組成が異なる培地での栽培試験を行った。
- 6月3日及び21日には、定植したトマトを掘りあげ、根の種類や量、伸長状況等を確認し、事業で導入する培地の原料及び配合割合を決定した。
- 9月までには、次世代ハウスと有機培地を利用した新たな養液栽培システムを設置する予定。

○指導班は、先進的農業者等と技術の確立を目指すとともに、実証圃場を若手普及指導員や新規就農者の研修の場としても活用することとしている。



試験培地の混合作業（5月）



掘り上げたトマトの根の状況

■中山栗産地力向上に向けて現地実証説明会を開催

○伊予農業指導班は6月5日、今年度第1回中山栗産地力向上事業に係る現地実証説明会を開催。

○今年度は昨年度の栽培管理を継続していくとともに、中山農業者協議会と連携した現地巡回や、新植園のモデル実証圃を設置し、栽培技術を周辺農家に波及させることとした。

○また、防除・剪定の効果が現れ生育が良好であること、今年度、多発したナラウススジハマキホソガ（害虫）は収量には悪影響を与えないこと、品種構成を考慮しながら園地別に適期防除を行うことを併せて指導した。

○会議では、「講師が剪定した見本樹に印をつけ、周辺農家に見てもらいやすくすることで、波及を効率的にしているかどうか」といった意見があり、今後、モデル園に看板を設置することにした。



今年度の現地実証内容を説明

■集落営農組織の育成に向けて専門家と連携

○伊予農業指導班は、農業経営サポートセンターと連携して、集落営農等の法人化や経営改善指導を実施している。

○5月22日は松前町若手農業者4人に対し、司法書士を招いて株式会社設立に向けた相談を実施。9月を目途に法人化を目指しており、7月上旬に、社会保険労務士を招いて役員報酬、従業員給与、雇用保険等について検討することとした。

○また、6月7日には野菜栽培の専門家を招き、軟弱野菜栽培を行っている農業生産法人のハウスで土壌改善策について検討し、湛水除塩処理するよう指導した。



専門家による土壌改善指導

久万高原農業指導班

■トマト・ピーマンの病害虫等定点調査を開始

- 久万高原農業指導班は6月5日から、JAと合同でトマト・ピーマンの調査を開始。
- これは、生育状況の確認のほか、病害虫の適期防除を図るため、継続的に実施しているもの。
- 調査はトマト19圃場、ピーマン20圃場で、10月までの月2回行い、結果はその都度、全部会員に周知する。
- 今回は、低めの気温による生育遅れや、乾燥でアブラムシ伝染のピーマンモザイク病の発生が早いことなどを確認した。



定点調査で病害虫の発生状況等を確認

■トマトの収量向上を目指した生育診断を開始

- 久万高原農業指導班は6月12日から、トマトの収量向上を目指し、植物体の硝酸イオン濃度測定による生育診断を開始。
- これは、高い生産性を実現する指導マニュアルづくりのため実施しているもので、現地実証圃を13か所設置し、2週間毎に9月まで行う。
- 指導班では、生育調査と硝酸イオン濃度の計測結果をもとに、生産者に対しかん水、施肥、摘葉などの指導を行う。



トマトの硝酸イオン濃度調査

中予地方局産地戦略推進室

■「東温パクチー産地づくり事業」Kick off 会議の開催

- 産地戦略推進室は6月3日、「東温パクチー産地づくり事業」にかかるKick off 会議を東温市役所で開催し、生産者や市、JA、実需者（飲食店）ら15名が参加。
- 近年のエスニック料理ブームを背景に、中予管内では数年前から東温市の若手生産者が中心となってパクチーの栽培に取り組んでおり、去年は8名が約65aで栽培。
- 会議では、安定生産に向けた栽培技術の確立、東温産パクチーの知名度向上や販路の拡大に向けた効果的なPR活動及び加工品開発の取組みなどについて協議を行い、東温パクチーの産地化を目指すことを申し合わせた。



パクチーの産地化に向けたKick off 会議



パクチーの生産者と商品

■「さくらひめ」のリレー出荷に向け産地間で連携

- 産地戦略推進室は6月21日、農産園芸課及び大洲農業指導班と連携して内子町小田の「さくらひめ」切り花生産者を訪問し、産地間でのリレー出荷に向けた生産・出荷状況について調査を行った。
- 小田地区は、標高約850mの高地で冷涼な気候を活かし、平坦部より早い10月中旬頃からの採花が可能であることから、当室では、12月から出荷が始まる中山・東温の生産者と連携してJAえひめ中央にリレー出荷に繋げ、市場における単価や認知度の向上を目指している。
- 当日は、小田の生産者2名から昨年度の時期別出荷状況や切り花の規格、品質等について聞き取りを行い、課題や対応策等について関係者で情報を共有。引き続き、相互に連携を図りながら、産地間のリレー出荷に向けた調整を進めていくことを確認。



小田地区の「さくらひめ」栽培ハウス



関係者でリレー出荷について検討

南予地方局地域農業育成室

■南予地方局における資金相談会を開始

- 地域農業育成室は6月13日、認定農業者を中心に増加傾向にある制度資金の借入相談に対応するため、日本政策金融公庫の参画を得て相談会を開催。
- 当日は、3名の農業者と経営改善について相談し、「相談がしやすくなる」と好評であった。
- 今後も、日本政策金融公庫をはじめとする関係機関と連携しながら、毎月第2木曜日（9～12時）に相談会を開催し、農業者の経営改善を支援する。



■玉津地区におけるアルバイトやボランティアの宿泊施設の開設

- JAえひめ南は7月1日より、宇和島市吉田町玉津の空き家となっていた民家を借り受け、玉津地区でのかんきつ栽培の労働力補完や災害復旧・復興を担う、アルバイトやボランティアの宿泊施設として開設。
- 同JAが管理する施設は3か所となり、約49人の宿泊が可能となった。
- なお、この施設の運営は株玉津柑橘倶楽部が行うほか、吉田町のみかんボランティアセンターと連携し、玉津地区におけるアルバイトやボランティアのマッチングを実施する。
- 地域農業育成室では、宇和島市、JAえひめ南と連携し、継続的にアルバイト等を確保する仕組みづくりや、労働力補完体制の整備を図る。



宿泊施設の外観

愛南農業指導班

■河内晩柑とブロッコリーの新たな技術を報告

- 愛南農業指導班は6月4日、認定農業者や関係機関職員30名を対象に、河内晩柑とブロッコリーの栽培等に関する実証の成績報告会を開催。
- 河内晩柑は「液肥を活用した落果防止」や「マイナスイオン発生装置を活用した長期貯蔵方法」、ブロッコリーは「トンネル被覆による春どりブロッコリーの栽培実証」について、実用化に向け成果が得られている旨を報告した。
- 参加者から、現場と直結した試験結果に高い感心を示され、安定生産やコスト低減につながる栽培技術を導入したいとの声が多く聞かれたことから、指導班では、引き続き技術確立を図りながら農家への普及を図る。



実証事業の成果報告

南予地方局産地戦略推進室

■「うめの里まつの再興ビジョン」の実現に向けて活動を実施

- 産地戦略推進室は6月4日、松野町町民センターで開催された松野町梅振興会総会において、うめ栽培農家や関係者19名に、「うめの里まつの再興ビジョン」を説明し、うめの収量向上を目指した管理作業の見直しや新規栽培農家の確保など、産地の再興に向けた取り組みへの協力を呼びかけた。
- 出席した農家からは、新規栽培農家の確保には収益向上が必須であることや、うめの放任園を所有する農家に再度、耕作を呼びかけてはどうか、などの意見があった。
- また、6月19日には、収量向上への取り組みとして、松野町奥野川の谷本岩雄氏が管理する未剪定園の事前調査を実施した。
- 今後、管理園との収量等を比較するとともに実証圃を設置し、12月に実施する栽培管理講習会で、農家に剪定の重要性について周知し、管理技術の向上を図る計画。



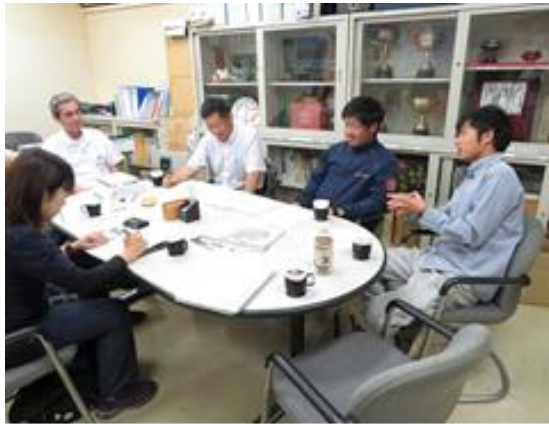
松野町梅振興会総会

八幡浜支局地域農業育成室

■労働環境改善に向け意見交換

- 地域農業育成室は6月18日・27日に、川上・真穴地区において柑橘園地の労働環境改善に関する検討会（市、町、農業委員会、青年農業者）を開催した。
- 検討会では、屋外トイレの設置状況やアシストスーツの活用等について現地調査や協議を行った結果、川上地区ではトイレ環境整備として、アルバイト等が認識しやすい色合いへの塗装や案内板の設置を、青年農業者が中心に実施することとなった。
- また、収穫期の労力軽減に向け、比較的安価なアシストスーツ4着について、負担軽減を数値化する等の効果実証を進めることとなった。

○併せて、トイレの未整備地区については、設置場所や管理方法などの検討を行い、順次、整備していくことを申し合わせた。



検討会開催状況



屋外トイレ現地調査

■暑い夏に向けて摘果本番！

- 地域農業育成室は、JA西宇和と連携し6月10日から28日にかけて、管内共撰10支部（参加者550人）で、高品質安定生産を目指した摘果講習会を開催した。
- 今年の開花後の結実量は、温州みかんで前年比102%、中晩柑で94%と平年並みであったが、少雨乾燥等の影響から一次落果が多く、園地や樹ごとに着果量に大きなバラツキが出ている。
- 温州みかんでは昨年並みの数量を、中晩柑全般、特に清見では昨年よりも少ないことが予想されることから、今後は、摘果による連年生産に向けた夏季管理を徹底し、高品質安定生産に努めていく。



技術者摘果研修会

大洲農業指導班

■キウイフルーツかいよう病拡散防止に向けて

- 大洲農業指導班は6月7日、JA愛媛たいきキウイフルーツかいよう病拡散防止対策協議会に出席し、今年度の発生状況の報告と今後の対応について協議。
- 指導班から、5月10～24日に実施した管内全園調査（450園地）結果と、今後の感染防止に向けた対策について説明した。
- 今年度は、雨が少なかったことからかいよう病の発生は少なかったため、生産者間で防除に対する気の緩みが出てくることが心配されており、引き続き、関係機関と連携し拡大防止に向け、現場指導を徹底していくことを申し合わせた。

西予農業指導班

■農事組合法人「いのべにし」、「加茂ファーム」で農福マッチング活動

- 西予農業指導班では、農家と福祉施設とのマッチング（農福連携）に取り組んでおり、6月3日に農事組合法人「いのべにし」、6月24日に農事組合法人「加茂ファーム」で、市内就労支援施設とのマッチング活動を行った。

- 今回のマッチングは、農家の労働力確保と施設の就労体験への要望を、ともに生かす目的で行われ、いずれの農事組合法人も初の取り組み。
- 内容はタマネギの収穫作業で、「加茂ファーム」では施設職員1人と利用者10人が、農作業に汗を流した。
- 今後は、収穫したタマネギの出荷調製やキャベツの栽培管理などで、マッチングを計画している。



就労体験の様子

■水稲新品種「ひめの凜」西予市での田植え終了

- 西予市では、認定栽培者16人が約9haで水稲新品種「ひめの凜」栽培に取り組んでいる。
- 「ひめの凜」は、西予カントリーエレベーターやJA野村支所育苗センターで播種・育苗された後、認定栽培者に配布され、6月15日にすべての水田で田植えが終了した。
- 田植えが早い水田では、すでに中干し等中間管理が始まっている。認定栽培者は熱心に生育状況を確認しながら栽培に取り組んでおり、「ひめの凜」への期待は高い。
- 西予農業指導班では、今後も講習会や個別巡回等により適正施肥や適期収穫、病虫害防除など良食味米を目指した栽培技術普及に努める。



田植え直後の「ひめの凜」

八幡浜支局産地戦略推進室

■フィンガーライム産地づくり

- 産地戦略推進室は6月11、12日に、東京事務所と連携して、フィンガーライムの飲食店への提案や生産者の商談会参画支援など東京での販売拡大活動を行った。
- 11日に訪問した飲食店3店では、冷蔵・冷凍の輸入果実に対して国産果実の年間安定供給への期待のほか、品質の良さや果肉の粒が出てくる楽しさなどを伝える工夫をしてはどうかとのアドバイスを得られた。
- 12日は、八幡浜市内の生産者（株）かじ坊として初の商談会出展となる「地方創生『食の魅力』発見商談会2019」（主催者発表来場者数2,816人）で、多数のバイヤーらにフィンガーライムを紹介。試食で輸入との違いや品質を伝えたほか、チラシ（130部配布）やタブレットも活用して具体的な商品説明ができるよう工夫した。
- 商談会后に同社への問合せも増えており、当室は、今後も販売拡大活動や生産者と連携して栽培候補者の発掘を続ける。



チラシやタブレットを活用し、料理例のほか花や着果状況、果肉色や形状の多様さなどバイヤーの質問に対応



果肉が粒状に出るのを見せて香りや食感をPR

■第2回川田温州栽培研修会を開催

- 産地戦略推進室は6月25日、みかん研究所及び八幡浜市内圃場で川田温州の栽培講習会を開催。
- 当日は、川田温州生産者13名が出席し、みかん研究所の研究状況及び今後の対策について研修を受けた後、生産者の園地を巡回し安定着果対策についての状況確認を行った。
- 川田温州は隔年結果性が特に強いため、各自の栽培管理方法の違いによる結実状況等の確認と今後の管理について報告され、参加者で安定生産に向け意見交換した。
- JAにしろわの指導員も多数出席し、川田温州と同様に隔年結果性が強い石地温州への技術応用を検討する場にもなり、温州みかんの生産安定に向け一丸となって取り組むこととなった。



■ニラの労働軽減とマッチした農福連携推進に向けて

- 産地戦略推進室は、高齢者等を対象としたニラの産地づくりを進めているが、出荷調製作業に時間を取られるため、栽培面積拡大のネックとなっている。
- そこで、農福連携による労力確保を検討するため、西予市宇和町のニラ栽培農家が市内の障害者就労施設利用者を雇用し、ニラの出荷調製作業（そぐり作業）を行った。
- 作業のポイントを理解してスムーズかつ熱心な作業状況であり、今後も定期的に雇用を継続することになった。
- 今後、西予農業指導班では農福連携が可能な作業を検討し、JAひがしろわとも連携しながらマッチングを進めてゆく。



ニラのそぐり作業に従事する
就労施設利用者

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543